No.124
1999.
1

岐阜の博物誌

編集兼発行
〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111
振替名古屋637909

凸凹型から上昇型へ

岐阜市歴史博物館館長　佐藤悦朗

わが国の博物館数は凡そ4,500館を数え、1年間に200館を超えるすさまじい開設ラッシュとのことである。一方、館数は増え続けているが、平成4年を境に入館者数は下降線を描いているとの日博協の報告もある。更に、別の研究機関のデータは、10年を経過した館は40%が下降型、30%が凹凸の平行型、残り30%が上昇型と記し、大規模の都道府県立博物館は概して上昇型と分析している。ショックなのは「市町村立」「民俗」「バス利用」の三条件そろった館は、枕をならべて討ち死に、完璧な下降型と総括していることだ。

国は「文化立国21ミュージアムプラン」の中で、生涯学習の代表的文化施設に博物館を上げ、「親しまれ・開かれた博物館」として多様な国民ニーズに応え、その質を高める為の拠点と位置付け、主軸を務める学芸員の資格に、新たに博物館経営学を必須科目に加えたところでもある。21世紀の博物館は、アカデミック機能は当然の前提として、どうやら学術中心から展示公開・教育普及中心へと機能重心が移動している感が強い。エドュケーションに知的エンタティメントを付加することで、人々の利用喚起を限りなく高めることが要求される時代に入ったと考えなければならない。

私ども公共博物館は、地域文化のシンボルとしての使命感と明確な目的意識を持ちながらも、厳しい財政環境と税の効率的運用への関心が高まる中で、いかに魅力ある博物館とし来館者の知的好奇心や創造的思考を満足させられるか、館の運営・経営面も視野にいれた創意工夫が求められよう。いわゆる、ミュージアムマネージメントである。人・モノ・器で構成される博物館は、実物訴求を核に希少性・資料性・美しさ・歴史性・数奇性といったハードに、動態保存・時空間体験・テーマ性・ストーリー性に遊びといった感覚のソフトを味付けし、これに情報・ホスピタリティ・サービスといった快適な環境の演出が整って、はじめて、多くの来館者を迎えることができると考える。21世紀の博物館の評価は、究極、集客性がキーポイントとなりはしないか。集客性が高いということは、トレンドなニーズ把握、創意工夫を凝らした展示、良好な受入体制、有効な情報等が有機的に作用し、なおかつ財源確保にも連動して、先ざきの館運営にも好循環が期待できることとなる。

西暦2000年に15年を迎える岐阜市歴史博物館は、岐阜公園内という恵まれた立地と30億円で開館した重厚な建物、内外の特別展の積み重ね、加えて県下唯一の「重文公開承認施設」のメニューをそろえ、年10万人の入館者目標を掲げ、館職員一体の懸命の努力を展開しているが、凹凸の平行型を維持するのに四苦八苦の現状である。時代に合ったリニューアルも念頭におきながら、当面凸型を増やし、次いで安定的な上昇型の仲間入りを目指して切磋琢磨したい。

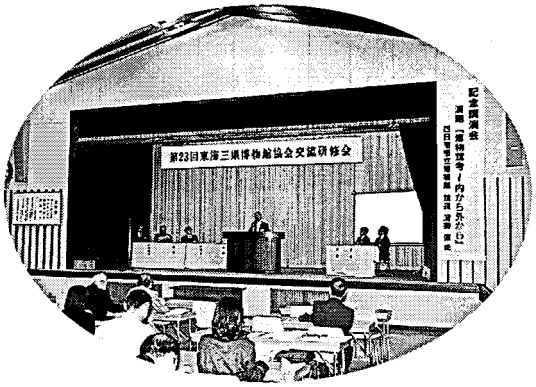
第23回
東海三県博物館協会 交流研修会に参加して

日時：平成10年10月28日(水) ～29日(木)
会場：伊勢市　神宮会館

平成10年度の三県交流研修会は伊勢市において、岐阜県から16名、三県合計で81名の参加により、次のような日程で開かれた。

第１日 10月28日（水）
・記念講演会「博物館考～内から外から」
　四日市市立博物館館長　渥美　保　氏
・事例発表
　「リニューアル後の博物館の動向」
　豊橋市自然史博物館事務長　　近藤洋二 氏
　岐阜県博物館ﾏｲ･ﾐｭｰｼﾞｱﾑ係長 岩田正雄 氏
　神宮徴古館農業館館長　　矢野憲一 氏
・懇親会

第２日　10月29日（木）
・視　察
　皇學館大學付属神道博物館
　神宮徴古館
　神宮徴古館農業館
　神宮美術館



記念講演では、「最も効果的な広報形態は、良いという口伝えによる広報である」（ＩＣＯＭ編『博物館の基礎』）という認識のもとに、いかにして来館者に満足していただけるかに腐心した「駅前博物館」の試み―子供の絵3,000枚の館内掲示・作者への手紙等―が印象的であった。

事例発表では、豊橋市自然史博物館の「リニューアルに向けての仕掛け」で、来館者を大人のみと子供連れに分け、それぞれが館内のどの展示室で何分間在室したか等を調査し、そのニーズを分析した上でリニューアルに取り組むという姿勢には納得させられた。

岐阜県博物館の「マイ・ミュージアムの現状」では、「県民に広く開かれた魅力ある」「気軽に参加でき誰もが楽しめる」「夢を持って新しい文化を創造できる」博物館という県民参加のギャラリーの取り組みが報告され、その先進性は多くの参加者の共感を得た。また、マルチメディアによる普及の取り組みや全国のマルチメディア情報センターとの情報交流・連携事業にも関心が寄せられた。

神宮徴古館農業館の「リニューアルについて」では、農・林・水産のすべてを包括した日本最古の産業博物館としての同館の、明治24年の開館から現在に至るまでの変遷に伴う苦心談が自信に裏打ちされて語られ、翌日の視察が楽しみになる内容であった。

夕食を兼ねた懇親会では、和気藹々の雰囲気のうちに各県各館の交流が行われ、事例発表への質問あり、思い出話あり、提言ありと、誠に有意義な一時を過ごすことができた。

２日目の早朝、そぼ降る小雨の中、宿泊した神宮会館周辺の散策に出た。いつしか雨も止み、朝靄の立ちこめる内宮周辺では踏む玉砂利の音にも厳かな歴史の重みが感じられた。

午前中は、それぞれに長い歴史と特色を持つ４館の視察をした。皇學館大學付属神道博物館のエントランスを飾るサポーターの作品、1,360数体にものぼる和紙の人形ジオラマが今宮の戎神社の初戎の様子を生き生きと伝えているのには驚嘆した。また神宮徴古館での御装束神宝や多くの考古歴史資料の見学、同農業館での旧稲葉郡日野村出土の古代木鋤との対面等を終え、神宮美術館を見学し、おはらい町内で昼食後解散した。

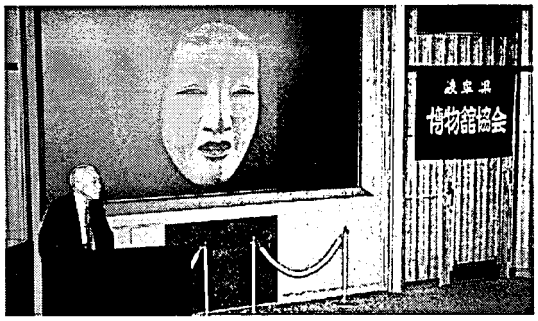
帰路、「斎宮歴史博物館」へも立ち寄ることができ、実に得るものが多く充実した２日間の研修であった。

（岐阜県博物館　長嶋俊之）

第78回岐阜県博物館協会公開講座報告

「福井・岐阜の能面」

日時：平成10年10月4日(日)13:30～15:00
場所：岐阜県博物館ハイビジョンホール
講師：昭和女子大学教授　後藤　淑　氏



当協会第78回公開講座は岐阜県博物館と共催で行われ、折から同館で開催中の特別展「能面へのいざない―白山山麓から―」にちなんだお話を伺いました。国の文化財保護審議会委員をつとめておられる後藤氏は中世芸能史に興味を持たれ、半世紀に渡りその調査研究をなさっています。今回もその成果をもとにしたお話をして頂きました。

まずはじめに、文化財のどこに価値があるのかを見極め、さらにそれが現代においてどのような価値を持つのかを考えなければいけないというお話があり、日頃から文化財に携わる者として心に留めておかねばならない言葉だと痛感した次第です。

さて、能楽の大成者・世阿弥の『申楽談義』には越前の面打師に関する情報が多く載っており白山信仰が面打師を育てたと言うことができるそうです。そのような白山山麓には室町時代に制作された完成度の高い面が数多く伝わっており、それらのうちのいくつかを写真を用いて解説されました。中でも福来作の朝倉尉や徳若作の小牛尉などは完成された様式を有しており芸術的にも価値が高いということです。またそれらの地域では、面だけでなく三番叟などの舞も良いものが残っており古い形態を良く伝えているそうです。

岐阜や福井は日本の能面史を考えるうえで重要であり、一地方ではありながらも最高水準のものを有する特異な地域であることをまとめとされ、お話を終わられました。

第42回岐阜県博物館協会会員研修会報告

日時：平成10年11月13日(金)13:30～15:00
場所：岐阜県博物館研修室
参加：20名

「岐阜県の植物の収集と整理・保存について」
講師　岐阜県博物館　学芸員　井上好章氏

「なんでもない田圃にこそ面白い物がある」という言葉からはじめられた本発表では、岐阜県博物館の植物資料の収集と整理についてのお話がありました。まず岐阜県の植生を知るためにスライドの上映があり続いて同博物館の植物標本の整理法の紹介、収蔵庫の見学がありました。中でも膨大な点数の標本を的確に整理されていた収蔵庫内部は圧巻であり、地味ではありますが博物館における整理分類作業の大切さを思い知らされました。

「博物館のﾏｲﾐｭｰｼﾞｱﾑｷﾞｬﾗﾘｰについて」
講師　岐阜県博物館　学芸員　熊﨑康文氏

本発表では岐阜県博物館のマイミュージアムギャラリーについてのお話がありました。

同ギャラリーは県民のコレクションや生涯学習の成果を発表する場として開設され、従来の博物館とはひと味違った県民参加型の施設を目指しているとのこと。その運営に関する委員会や出展者との交渉などの基本的な事項の解説と共に、出展者が行う催し物についての説明がありました。なかにはお年寄りと子供のふれあいが生まれるような催しも行われ好評を得ているとのことでした。

(機関紙委員　岐阜県博物館　岩佐伸一)

館・園紹介 No. 105

半原版画館

〒509-6251
瑞浪市日吉町半原
TEL 0572 (69) 2474

半原版画館は糸魚川夫妻が30年ほどかけて趣味で収集した明治時代の石版画などを多くの人に見てもらいたいと、昭和59年4月に開館された私設美術館です。木立に囲まれた山荘風の建物の小窓にはステンドグラスが自然の光を受けて輝いています。展示室のとなりには居間があり、車座になって談話できるようになっています。

一般に美術品と呼ぶものではないけれども、つくった人の心意気、身のまわりのなんでもないものに見られる美しさを、味わい・楽しんでもらえればと、春から秋にかけて年間6回ほどの企画展を開催しておられます。

【交通】JR中央線瑞浪駅から車で10分
【開館時間】13：00～17：00
【開館日】企画展開催期間中のみ
(詳しくはお問い合わせ下さい)
【入館料】無料

館・園紹介 No. 106

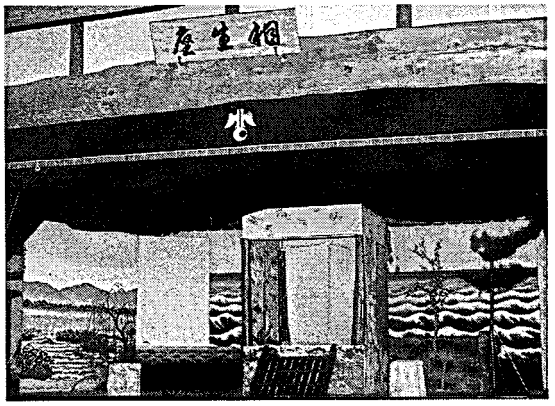
美濃歌舞伎博物館〈相生座〉

〒509-6251
瑞浪市日吉町8004-25
(日吉ハイランド倶楽部「尚古苑」内)
TEL 0572 (69) 2126

日吉ハイランドの企業博物館である美濃歌舞伎博物館は、下呂町宮地にあった農村芝居小屋「相生座」と恵那郡明智町にあった「常磐座」の二劇場を合体させ、一つの劇場に再生復元された歌舞伎小屋です。現在も廻り舞台やせり上りなど劇場としての機能を持っていて、日吉ハイランド倶楽部の従業員により結成された美濃歌舞伎保存会によって、毎年夏と秋とに美濃歌舞伎が演じられており、県内外から多くのファンが訪れます。

客席の一、二階のまわりには歌舞伎衣装が展示されており、舞台に上がることはもちろん、舞台裏も見学することができます。体験型の博物館をめざしていて、実際に舞台で使用されている柝（拍子柝やつけ柝）や太鼓を打つこともできます。

収蔵資料は劇場建物のほか、美濃地方の地芝居に用いられた歌舞伎衣装約4,000点、かつら類300点、その他小道具・大道具などです。



【交通】JR中央線瑞浪駅から車で25分
【開館時間】8：00～17：00
【休館日】毎週金曜日と年末年始
【入館料】無料

(財団法人 土岐市埋蔵文化財センター　諏訪洋子)

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています。